

下の枠に比較したい文章を入れてください。差分 (diff) を表示します。

いつれの御時にか女御更衣あまたさふひ給る
中にいとやんこなきハにはあらぬかすくれてと
きめき給ふありけりはしめより我ハと思ひ
あかり給へる門かたくめざましきものにをし
めそねみ様おなしほとそれ下らうの更衣たち
はましてやすからに朝夕の節つかへにつけても
人の心をそこかしうゝみをおふつもりにやありた
けむいとあつてなり行もの心ほそけにさとかち
なるを伊よくあかす衆なる物におぼゝして
人のそしりをもえはからせ給はす世のたし
にもなりぬへき御もてなしかむたちめこへ
人なもあいなくめをそはめつ伊とまはゆ
き人の御出ほえもろこしにもかゝる事の
おごりこそ世もみたれあしかりけれど
やうくあめのしたにもあ地きなう人のもて

水時一えの
いつれの御時候りか女俳更衣あまたさふゝひ給け門
中にいとやんとれきゝはにはあらぬかすぐれこくと
きかき給ふありけりはしめより我つと思ひ
あかり給へる御かたくめざましきものにをとし
めそねみ様おなしほとそれ下らうの更衣たち
はまして屋すからす朝夕の言つかへにつけても
人の心をうごかしうらみをおふつりりにやありり
けむいとあつしくなり行もの心ほそけにさとかち
なるを伊よくあかす哀なる物におぼくゝして
人のそしりをもえはゝからせ給はす世のたしめ
にもなりぬへき御もてなし也かむたちめうへ
人などもあいなくめをそばかつゝ伊とまはゆ
き人の御出ほくしもろこしにもかゝる事の
おごりにこそ世もみたれあしかりけれど

比較する

いつれの御時にか女御更衣あまたさふひ給る
中にいとやんこなきハにはあらぬかすくれてと
きめき給ふありけりはしめより我ハと思ひ
あかり給へる門かたくめざましきものにをし
めそねみ様おなしほとそれ下らうの更衣たち
はましてやすからに朝夕の節つかへにつけても
人の心をそこかしうゝみをおふつもりにやありた
けむいとあつてなり行もの心ほそけにさとかち
なるを伊よくあかす衆なる物におぼゝして
人のそしりをもえはからせ給はす世のたし
にもなりぬへき御もてなしかむたちめこへ
人なもあいなくめをそはめつ伊とまはゆ
き人の御出ほえもろこしにもかゝる事の
おごりこそ世もみたれあしかりけれど
やうくあめのしたにもあ地きなう人のもて
なやみくさになりて楊貴妃のためもひ
きいてつへうなり行にいとはしたなき事おほ
かれとかたけなき御心はへのたくひなきを

水時一えの
いつれの御時候りか女俳更衣あまたさふゝひ給け門
中にいとやんとれきゝはにはあらぬかすぐれこくと
きかき給ふありけりはしめより我つと思ひ
あかり給へる御かたくめざましきものにをとし
めそねみ様おなしほとそれ下らうの更衣たち
はまして屋すからす朝夕の言つかへにつけても
人の心をうごかしうらみをおふつりりにやありり
けむいとあつしくなり行もの心ほそけにさとかち
なるを伊よくあかす哀なる物におぼくゝして
人のそしりをもえはゝからせ給はす世のたしめ
にもなりぬへき御もてなし也かむたちめうへ
人などもあいなくめをそばかつゝ伊とまはゆ
き人の御出ほくしもろこしにもかゝる事の
おごりにこそ世もみたれあしかりけれど
へうくあめのしたにもあむきなう人のりて
なやみくさかりなりて楊貴妃のたはしもひ
きいてつへうなり行にいとはしたなき事おほ
かれとかたけなき御心はへのたくひなきを

たのみにてましらひ給ち大納モはなくなりて
はのかたなむ仰にラへの人のよあるにて
おやうちくしさしあたりて世のおほえはなやか
なる御かたくにもおらすなに事のきしき
をももてなし総年れととりたてはか
き御うしろみしなければことある時はなを
より所なく心ほそけさきの世にも御契り
やふかりけむよになくきよトなるたまのお
のこみこさへうまれ給ぬいつしかと心もとな
がらせ給ていそきまいトせて御誰んするにづら
かなるちこの御かた比ナもり一のみこは右大江の女御
の御はらにてよせほくトうたかひなきまうけ
の君と世リもてかしつきこかかれとこの御
にほひにはならひ給へくもあらさりければおほか
たのやむれき御思るにて此君をはわたくし
物におほシかしつき給事かきりいはしり
をしなへてのうへ号トつかへし給へききはニは
あらざりきおほえいとやんとなく上すめかしけ
れとわりなくまつはさせ給あまりにさるへき
御あそひのおりく何事にもゆへあることのふ
しくにはまづまうのほらせ給ある時に八ほ
とのこもりすくしてやかてさふらかせ給などあな
かちにおまへさト赤モてなさせ給し程にをのつ
からかろきかたにもみえしを此みこ生れ給て
後はいと心こにおもほしをきてたれは坊了も
ようせずはこのみこのみ給へきなめりと一のみこ
の女御はおほしこタかつり人よりさきにまいり
給てやむといき御思リなへてならすみこ
たちなともおいしませは此御かたの伊さめを
のみそ猶わつらはしく心くるしう思かきこて
させ給けるかしこき御かけをは次みきこながら
おしめキすをもとめ給人はおほくわか身はかよ
はく物はかなキありさまにて中くなる物思るをそ
し給御つほねはきりつほあまたの御かたくを
すきさせ給つトひまいき御まへわたりに人の御心
をつくし給もけにこはりとみたりまうのほり

たのみにてましらひ給ち大納言はなくなりて
はト北カのかたなむ伊イにしシへの人のよシあるにて
おやうちくしさしあたりて世のおほくはれやか
なる御かたくにもおとらすなに事のきしき
をももてなし飴氣トれととりたてはかくし
き御シうしろみしなければことある時はなを
より所なく心ほそけ也サきの世にも御契り
深の紙リやふかくりけむよになくきよらなるたまのお
のこみこさへうまれ給ぬいつしかと心もとな
がらせ給ていそきまいトせて御ろんするにそづら
かなるちこの御かた比ナなり一のみこは右大臣の女御
の御はらにてよせおくトうたかひなきまうけ
の君と世リもてかしつきトこゆれとこのツ
にほひにはならひ給へくもあらさりければおほか
たの屋ヤむれき御思るにて此愚ヲをはわたくし
物におほシかしつき給事かきりれしはしよより
をしなへてのうへつかへし給へききはかりは
あらざりきおぼトいとやんことれく上すはかしけ
れどわりなくまつはさせ給あまりにさるへき
御あそひのおりく何事にもゆへあることのふ
しくにはまづまうのほらせ給ある時にはおほ
とのこもりすくしてやかてさふらかせ給などあな
がちにおまへさトすもてなさせ給し程にをのつ
からかろきかたにもみえしを此みこ生れ給て
後はいと心ことトにおもほしをきてたれは坊了も
ようせずはこのみこのみ給へきなめりと一のみこ
の女御はおほしうタかつり人よりさきにまいり
給てやむことれき御思リなへてならすみこ
たちなともおいしませは此御かたの伊さリを
のみそ猶わつらはしく心くるしう思かきこて
させ給けるかしこきトかけをは次みきこながら
おとしつきすをもとめ給人はおほくわか身はかよ
はく物はかなキありさまにて中くなる物思るをそ
し給御つほねはきりつほシあまたの御かたくを
すきさせ給つトひまれきリまへわたりに人の御心
をつくし給もけにいりとみたりまうのほり

給にもあまりうちしきる折くはう北はしわた
取こゝかしこのみちにあやしきわさをしつ
御をくりむかへの人のきぬのすそたへかたうまさ
なき事ともあり又あるときはえざゝぬめたう
のとをさしめこなたかなた心をあせてはした
ななめわつらはせ縫時もおほかりことにふれて數
しらくるしき事のみまされはいと仰たう思るわひ
たるをいとゝ霜と御覧して後涼殿にもとより
さふらひ給更衣のさうしをほかにうつさせ給てうへ
つほねにたまはすそのうらみましてやらんかた
なし此みこみつになり給年御はかまきのと一の
呂のてまつりしにをとらにくらつかさおさめ
との物をつくしていみしうせさせ給それつけても
世のそりのみほかれと此みこのをよすけ
もておいする御かたち心はへありかたくめつし
きまで見給を元そねみあへ給す物の心
しり給人はかゝる人も世にいておいする物
けりとあさましまきまでめをおろかし給ふそ
の年の夏みやす所はかなき心ちにわつゝひ

て

まかてなむし給をいとまさゝにゆるさせ給は
す年比つねのあつしさになり給へれは御めなれ
て猶し策し心みよとの給するに日におも
りねてた五六りの程にいとよいうなれは
は君なくくそうしてまかてさせ奉り給かる
おりにもあるましきは比もこそと心つひ
てみこをハとめ奉りてしのひてそいて給ふかき

あれはさのみもえとめさせ給す御強つしたに
をくらぬおほつかなさをいふかたなくおほさるいと
にほひやかにうつくしけなる人の住たうおも
やせていと衆と物を思るしみながらことにいて
もきこてやら歩あるかなきかにきてりつ物
給を御繩んするにきしかた行末おほしろされす
万の事をなくくのたますれと御いつもえ
きて給はにまみなともいとたつけにていと
なよくとわれかのけしきにてふしたれ伊かさま

給にもあまりうちしきる折くはう地はしわた
取こゝかしこのみちにあへしきわさをしつ
御をくりむかへの人のきぬのすそたへかたうまさ
なき事ともあり又あるときは置さゝぬはたう
のとをさしころこれたかなた心をあはせてはした
なろわつらはせ縫時もおほかりとにふれて數
しらくるしき事のみさされいいと仰たう思かわひ
したるをいとゝ哀と御覧して後涼取にもとより
さふらひ給更衣のさうしをほかにうつさせ給てうへ
つほねにたまはすそのうらみましてやらんかた
なし此みこみつになり給年御はかまきのこと一の
吉のたまてまつりしにをとらにくらつかさおさめ
との物をつつしていみしうせさせ給それにつけても
尤のそりのみおほかれと此みこのをよすけ
もておいする御かたち心はへありかたくかつらし
きまで見え給をえそねみあへ給す物の心
しり給人はかゝる人も世にいておいする物し
けりとあさましまきまでそをおとろかし給ふそ
の年の夏みやす所はかれき心ちにわつゝこひへ

まかてなむとし給をいとまさゝにゆるさせ給は
す年比つねのあつしさになり給へれは御めなれ
て猶し氣し心みよとの給するに日ゝにおも
り給てた五六日の程にいとよいうなれは
はゝ君行くくそうしてまかてさせ奉り給かる
おりにもあるましきは行もこそと心つかひし
てみこをはとめ奉りてしのひてそいてもふかき
の

あれはさのみもえとゝはさせ給すつろつしたに
をつらぬおほつかなさをいふかたなくおほさるいと
にほひ屋かりうほくしけなか人の仰たうおも
屋せていと哀と物を思るしみながらことにいてゝ
もきこてやらすあるかなきかにきてりつ物し
給をつ訪んするにきしかた行末おほしろされす
万の事をなくく契のたまはすれと御いゝつもえ
きこて給はにまみれともいとたつけにていと
なよくとわれかのけしきにてふしたれ伊かさま

にかとおほししまとはかて車のせんしなとの
たま世ても又仰せ給てはさゝにえゆるきせ
行はすかきりあらんみちにもをくれさきた
しと地ぎらせ給けるをさりともうちすてゝは元
ゆきやしとの給寺るを女もいと伊しと
みたてまつりて
かきりとてわかるみちのならきにいかま
ほしき八伊のちなりけりいとかく思給へましか
はといきもたつきこえまほしけなる事
ありけなれといとくるしけにたゆけなれ八かく
ながらともかくもならんを御覧しはてんとおし
めすに**をり**はしむへきいのりともさるへき人
うけ給はれるこよひよりときこ伊そかせは
わりなくおもほしなからまかてさせ給ふつつむ
ねのみつとふたかりて露まとろまれすあかし
かねさせ給御使のけかふ程もなきになをいふ
せさをきりなくのたまはせつるを夜中うち
過るほどになむたえはて給ぬるとてなきさ
はけ八御使もいとあへなくて帰りまいりぬき
こしめす御心まとひ何事もおほしろしわかれ
すこもりおつしますみこはかくてもいと御らむ
ぜまほしけれとかる程にさふひ給れいなき
事なれはまかて給なむとすなに事かあらむ
おもほしたらにさふふ人のなきまとひうへも
御なみたの隙なくなけれおはしまにをあやしと
見たてまつり縋つるをよろしき事にたにかる
わかれのかなしかくぬはなきわさなるをまして
衆にいふかひなしかきりあれはれいのさほう
におさめたてまつるをはゝ北のたおなし參ふり
にものほりなんとなきこかれ給て御をくりの
女なの車にしたひのり給ておたきといふ所に
いと伊かめしうそのさほうしたるにおはしつきたる
心ちいかはかりかはありけむ無なしき御からを
みるくなをおする物と思かいとかひななければはひ
になり給はむをみたてまつりてすはなき人
とひたふるにおもひなりなむとさかしうの給
へかレ古トれせためへニキレハタヘナヤナ田ニ

にかとおほしはしまとはりて車のせんしなとの
たませても又仰らせ給てはさゝにえゆるさせ
行はすかきりあらんみちにもをへれさきたゝゝ
しと地ぎらせ給けるをさりともうちすてゝはえ
ゆきやらしとの給等るを女もいと伊らしと
見らしてまつりて
かきりとてわかるみちのかなしきにいかま
ほしきは伊のちなりくりいとかく思給へましか
ばといきもたえつきこはえまほしけなか事は
ありけなれといとくるしほにたゆけなればかく
ながらともかへもならんを御ろんしはてんとおほし
かすにするはしむへきいのりともさるへき人
うけ給はれるこよひよりときこ伊そかせは
わりなくおもほしなからまかてさせけふつけむ
ねのみつとふたかりて露まとろまれすあかし
かねさせ給ツ使の行かふ程もなきになをいふ
せさをかきりなくのたまはせつるを夜中うち
過るほどになむたえはて給ぬるとてなきさ
はけは御使もいとあへれて帰りまいるぬき
こしかす御心まとひ何事もおほしはしわかれ
すこりおつしますみこはかくてもいと御らむ
ぜまほしけれとかる程にさふひ給れいなき
事なれはまかて給なむとすなに事かあらむとも
おもほいたらすさふふ人のなきまとひうへも
つ行みたの隙なくなけれおいしますをあやしと
見たてまつり縁つるをよろしき事にたにかる
わかれのかなしかくぬはなきわさなるをまして
哀りいふかひなしかきへりあれはれいのさほう
におさめたてまつるをはゝ北のかたおなし氣ふり
にものほりなんとなきこかれ給て御をくりの
女なの車にしたひのり給ておたきといふ所に
いと伊かろしうそのさほうしたりにおはしつきたつ
心ちいかはかりかはありけむむなしき御からを
ミるくなをおはする物と思かいとかひななければはひ
にれり給はむをみし候てまつりてすはなき人
とひたまるにおりひなりなむとさかしうの給
へかレ古トれせためへニキレハタヘナヤナ田ニ

メレに半みソのコロハノミシヒテハコは心を
つかしと人くもてわつらひきこゆ内よりつかひ
あり三位のくらゐをくり給よし勅使きてそ
の宣今よむなんかなしきといりける女御と
たにいはせ奇なりぬるかあ灰灰火すくちおしうおほ
さるれはすひときさみのくらゐをたにとをくら
せせ給なりけりそにつけてもにくみ給人ゝほ
かり物思る知り給はさまかたちなとのめてたかし
こと心はせのなたらかにめやすくにくみかたかり
しことなと仰まそおほしいつるさまあしき御
もてなしゆへこそすけなうそねみ給しか人らの
霜になさけありし御心をうへの女房なども
恋しのひあへりいくてそとはかる折にやと見
たりはかなく日比すぎて後のわさなどにもこま
かにとふらはせ給ほとふるまにせんかたなう
かなうおほさるに御かたくの御殿ゐなどもた
えてし給すた涙にひちてあかしくらさせ給
へはみ奉る人さへ露けき余也なき跡まで人
のむねあくましかりける人の御おほかなどそ
船激殿などには猶ゆるしなうの給ける一の号を
たてまつらせ給にもわか号の御恋しさのみお
もほしいてつゝしたしき女房御めのとなどをつか
しつゝありさまをきこしめす野分たちて
りはかにはださむき夕暮の程つねよりも
おほしいつるおほくてゆけひの命婦といふを
つかすタつく夜のかしきほとにいたして
させ給ひてやかてなかめおしますかやうのりは
御あそひなとせさせ總しに心こなるものね
をかきならしけかなくきこいつるこのはも人
よりはことなかしふハひかたちの雨影につとそひて
おほさるゝにもやみのうはにはなををとるけり
命婦かしこにまかてつきてかとひきいるり
けはひ衆しやもろすみなれと人とりの御し
つきにとかくつくろひたてやすき程にてす
くし給つるをやみにくれてふし給つるほとに
草もたかくなりにいとあれたる心ちして
月影いかりそやへむくらにもさはすさし入たる

メレに半みソのコロハノミシヒテハコは心を
つかしと人くもてわつゝひきこゆ内より御つかひ
あり三位のく井をくり給よし勅使きてそ
の宣命よむなんかなしき一とれりける女御と
たにいはせずなりぬるがあかすくちおしうおほ
さるれはたひときさみのくらゐをたにとをくら
せ給なりけりそかりつけてもにくみ給人ゝおほ
かり物思る知り給はさまかたちなとのかてたかしり
こと心はせのなたらかにめやすくにくみかたかり
しことなと仰まそおほしいつかさまあしき御
りて行しゆへこそすけなううねみ給しか人からの
最了なさけありし御心をうへの女分なども
恋しのひあつりれくてそとはかる折にやと見
たりはかなく日比すぎて後のわさなどにもこま
かりとふらはせ給ほとふるまにせんかたれう
かなしうおほさるゝりゆかたくの御取ゐなどもた
えてし給すた涙にひちてあかしくさを給
へは見奉る人さへ露けき胡也なき跡までへ
のむねあくましかりくる人の御おほしかなどそ
弘激殿などには猶ゆるしなうの給ける一の旨をみ
たてまつらせ給にもわかの御恋しさのみお
もほしいてつゝしたしき女房御はのとなどをつか
いしつゝありさまをきこしかす野分たちて
こりはかにはださむき夕暮の程つねよりも
おほしいつるおほくてゆけひの命婦といふを
つかいすタつく夜のおかしきほとにいたして
させ給ひこてやかてなかはおつしますかやうのおりは
御あうひなとせさせ飴しに心ことなるものゝね
をかきなしはかいくきこいつるのはも人
よりはことれりしけいひかたちの雨影につとそひて
ノおほさなくゝにもやみのうほゝりはなををとりけり
命婦かしこにまかてつきてかとひきいるゝより
けはひ顔しやもろすみなれと人日とりの御かし
つきにとかくつくろひたてらやすき程にてす
くし給つつを屋みにくれてふし候つかほとり
草もたかくなり野分にいとあれたる心ちして
月新しいかりそやへむくらにもさいらすさし入たつ

みなみおもてにおろしてはゝ君もとみにえ物も
の給はすまでとまり侍るかいとうきをかゝるツ
かひのよもきふの露分いり給につけてもいと
はつかそなんとてけにえたふましくない給
まいりては住とゝ心くるしう心ぎもつくるやう
になむと内侍のすけのそうし給しをもの思る
給へしらぬ心ちにも栄にこそいとしのひかたう侍
けれとてやためらひておほせとつたへきこゆ
し八しは夢かとのみたこれしをやうく思るし
つまるにしもさむへきかたなくたへたきはいかに
すへきわさにかともとひあすへき人たに
なきをしのひてはまいり給なんやわか君のいと
おほつかなく露けき中にすくし給も心くるし
うほさるをとくまいり給へなとはかくしうも
のたまは残やらすむせかへらせ給つかつは人
も心よはく見奉らんとおほしまぬにも
あらぬ御氣主しきの心くるしさにそけ給り
もはぬやうにてなんまかて侍ぬるとて御ふみ
奉るめもみえ侍らぬにかくかこきおほせをひ
かりにてなむとて見給ほとへはすこし打まきる
る事もやとま北すくに月りにそへていとしのひか
たきはわりなきわさになむいはけなき人もいか
にと思やりつゝもろともにはくまぬおほつかな
さをすは猶むかしの如かたみになす候へて物の給へ
なとこまやかにかゝせ給つり
宮きの露ふきむすふ風の音に小歎か
もとを思るこそやれとあれとえ見給はてす
命なかさのいとつらう思給へしらるゝに松のも
はむたにはつかしう思給へ侍れはもしぎに
行かひ侍らむ事ハましていとはゝかりほくなむ
かしこきおほ勢ことをたひくうけ給なかゝゆつ
はええなむ皿か給へたつましきわか呂は伊かりお
もほししるにかまいり給つむこをのみなんほ
しいそくめれはこといりにかなう見奉り侍
なと内くに思給つるさまをそうし給へゆしき
身に侍れはかくておはしますもいまくしそ

あ能みなみおもてにおろしてはゝ意もとみにえ物も
の給はすしまでとまり侍るかいとうきをかゝるツ
かひのよもきふの露分いり給につけてもいと
はつかしうなんとてけにえたふましくない給
まいりては侍とゝ心くるくしう心ぎつもつくる屋う
になむと内侍のすけのそうし給しをもの思る
給へしらぬ心ちにも東にこそいとしのひかたう侍行
けれとてやたからひておほせつたへきこゆ
しはしは夢かとのみたとられしをやうく思かし
つまるにしもさむへきかたれくたへかたきはいかに
すへきわさにかともとひあすへき人たに
なきをしのひてはまいり給なんやわか店のいと
おほつかなく露けき中にすくし給も心くるし
うおほさるをとくまいり給へなとはかくしうも
のたまはせやらすむせかへらせ給つつかつは人
も心よいく見ならんとおほしつまぬにしも
あらぬ御重しきの心くるしさにうけ給はり
もはぬやうにてなんまかて侍ぬるとてつふみ
奉るめもみえ侍らぬにかくかしこきおほせことをひ
かりにてなむとて見給ほとへはすろし打まきつ
る事もやとまむすべす月りにそへこていとしのひか
たきはわりなきわさうなむいはけなき人もいか
にと思やりつゝもろともにはつまぬおほつかな
さをすは猶むかしのかかたみになすへこて物の給へ
なとこまやかりかゝせ給へり
きの露ふきむすふ風の音に小萩か
もとを思るこそやれとあれと疊見給はてす
命なかさのいとつらう思給へしらるゝに松のおも
はむ事たにはつかしう思給へ侍れはもらしげに
行かひ侍らむ事はましていとはゝかりおほくなむ
かしこきおほせをたひくうけ給なからつつか
は疊々なむ皿給へたつましきわか宮は伊かりお
りほししるにかまいり給はむことをのみなんおほ
しいそくかれはことつりにかなう見なり侍
なと内くに思給つるさまをそうし給へゆしき
ゆに侍れはかくておはしますもいまくしう

かたしけなくなどのまふ玄はおほとのこもりに
けりみこてまつりてくはく御ありさまもそし
侍まほしきをま比おらしますらむを夜ふけ
侍ぬつしとてそくくれまとふ心のやみたつ
かたきかたはしをたにはるくはかりにきこま
ほう侍をわたくしにも心のとかにまかてたまへ
年比うれくおもたしきつみてて立より
給し物をかる御せうそこにてみ奉る返つ
つれなき命にも侍か計むまれ時より思心
ありし人にて右大納くいまハとなるまでた
此人のみやつかへのほいかならすとけさせ奉れわれ
なくなりぬとてくちおしう思くづおるなど返
いさかをかれ侍しかははかくしそこしろみふ人も
なきましらひは中くなるへき事と思ふ給へながら
たかのゆいこむをたへしと斗いたしたて侍
を身にあまるまでの御心さしの万にかたしけ
なきに入けなきは北をかくしつましらひ給め
るを人のそねみふかくつもりやすかぬ事
おほくなりそひ侍るにこさまなるやうにて
つゐにかくいり侍ぬればかへりてはつらくん
かしこき御心さをもふ給へ侍がる其もわりなき
御心のやミなどといひもやすむせかつり給程に
夜もふけぬうへもしかなんわか御心ながらあな
かちに人かおとろくつかりおほされしもなか
るましきなりけりとをはつらかりける人のり
になんよにいさかも人の心をまけたる事はあら
しとおもふをたこの人のゆへにてあまたさる
ましき人のうらみををひしはてくはかう
うちすてられて心おさめむかたなきにいゞ
人わろかたくなになりはつるもさきの世
ゆかしうなむとうち返しつ御しほたれち
にのみおハしますとかたりてつきせずなくく
夜いたうふけぬればこよひすぐさす御返そう
せんと伊そきまいる月は入かたの空きよう
すみわたれるに風いと涼しく吹て草むの
むしの声くもよほしかほなるもいとた地
ナカレにノキ音の土レ

かたしけなくとのまふ吉はおほとのこもりに
けりみしてまつりてくはらく御ありさまもそうし
侍らまほしきをまひおいしますらむを夜ふけ
侍ぬつしとてそくくれまとふ心の屋みもたへ
かたきかたはしをたにはるかくはかりにきこしま
ほしう侍をわたくしにも心のとかにまかてたまへ
年比うれしむおもたしきつみてて立より
給し柿をかゝるいせうそこにて見なる返候つ
つれなき命にも侍か外むされし時より思心
ありし人にて故大納言いさつとなるまでたゝ
此人のみやつかへのほいかならすとけさせすれわれ
なくなりぬとてくちおしう思くづおるなど返
いさめをかれ侍しかははかくしうこしろみおりふ人も
なきましらひは中くなるへき事と思ふ給へながら
たかのゆいこむをたかへしと斗いたしたて侍
しを身にあまるまでの御心さしの万にかたしけ
なきに入けれきは地をかくしつましらひ給ろりつ
るを人のそねみかつかくつもりやすかくぬ事
おろくなりそひ侍るにうこさまなるやうにて
つゐかりかくれり侍ぬればかへりてはつゝくなん
かしこき御心さしを出るふ給へ侍る尽もわりなき
ツ心の屋ミなどといひもやくにむせかつり給程に
夜したけぬうへもしかなんわか御心ながらあな
かちに人かおとろくつかりおほされしもなか
るましきなりけりとしーはつゝかりける人の契り
になんよにいさかも人の心をまけたり事はあら
しとおりふをたこの人のゆへにてあまたさか
ましき人のうらみををひしはてくはかう
うちすてられて心おさかむかたなきにいとゝ
人わろう也かたくなにめりはつかもさきの世
ゆかしうなむとうちぬしつ御しほたれかち
にのみおつしますとかたりてつきせずなくく
夜いたうふけぬれば六よひすぐさす御返そう
せんと伊そきまいる月は入かたのくきよう
すみわたれるに風いと涼しく吹て草むかの
むししの声くもよほしかほなるもいとた地
ナカレにノキ音の土レ

すむしの声のきりをつくしてもなかき
 夜あかすふる波かなえものりやす
 いとくのしけき浅第生に露を
 きそふる雲のうへ人かごもきこえつへく
 なむといはせ給おかしき御をくり物などある
 へき折にもあらねはたかのツかみにてか
 るようもやとのこし給へりける御さうそくひと
 くたり御くしあけのてうとめく物そへ給ふわかき
 人くかなしきはさらにもいはす内わたりを
 朝夕にならひていとさうくしくうへの御あり
 さまなと思出きこゆれはとくまいり給ん事を
 そのかしきこゆれとかくいまくしき身のそひ
 たてまつらんもいと人きそかるへへ又筆
 てしはしもあらむはいとうしろめたう思るきこ
 え給てすがぐもえまいせたてまつり総

はぬなりけり命婦はまだおほとのこもらせ
 給はさりけるを衆に見奉るおまへのつほせんさい
 のいとおもしろきさかりなるを御らむするや
 てしのひやかに心にくきかきりの女房四
 五人さふらせ給て御物かたりせざ勢給なりり
 の比あけれ御語誤んする長恨歌の御ゑ亭子
 院のからせ給て伊勢つらゆきによませ給へる
 山とこの葉をもろこしの歌をもたそ
 のすちをそまくらことにせさせ給いとこまや
 かにありさまをとせ給ふ哀れりつるこし
 のひやかにそそす御返り御讃んすればいともかし
 こきはをき所も侍らすかるおほせ事につけ
 てもかきくらすみたり心ちになむ
 あらき風ふせきしかけのかれしより小
 歓かうへそしつ心なきなとやうにみたりか
 かいしきを心おさめさりけるほと御縛ゆる
 すへへし伊とかうしも見しとほししつむ
 れとさらにえ忍ひあへさせ給すツらむしは
 しめし年月のことさへかきあつめよろつにお
 ほしつけられて時のまもほつかなかりしを

すむしの声のかきりをつくしてもなかき
 夜あかすふる涙かなえものりやす
 いとくしく虫のけしけき浅第生に露を
 きそふか雲のうへ人かもきこしつへく
 なむといはせ給おかしき御をくり物などある
 へき折にもあらねはたかのあくとこにてか
 るようもやとのこし給へりくる御さうそくひと
 くたり御くしあけのてうとはく物そへ給ふわかき
 人くかれしきはさらにもいはす内わらりを
 朝夕にならひこていとさうくしくうへの御あり
 さまなと思出きこゆれはとくまいり給ん事を
 そゝのかしきこゆれとかくいまくしきつのそひ
 たてまつらんもいと人きうかるへし又置
 でし見しもあらむはいとうしろめたう思るきつこ
 番給て次がぐともえまいらせたてまつり給

見ぬなりけり命婦はまだおほとのこもらせ
 給はさりけるを顔り見るおまへのつほせんさい
 のいとおもしろきさかりなるをつらむするやう
 にてしのひ屋かり心にくきかきりの女な卿
 五人さふらはせ給て御物かたりをさせ給なくりり
 この比あけれ御ろんする長恨歌の御ゑ亭子
 院のからせ給て伊せつらゆきによまを給へる
 山ととの案をしもろこしの歌をもたたう
 のすちをそまくらことにせさせ給いとこまや
 かりありさまをといせ給ふ哀なりつるし
 のひ屋かりそうす門返りつろんすればいともかし
 こきはをき所も侍らすかるおほせ事につけ
 てもかきくすみしり心ちになむ
 あらき風ふせきしかけのかれしより小
 萩かうへそしつ心なきなとやうにみたりか
 かいしきを心おさめさりけるほと御語ゆる
 すへし伊とかうしも見えしとおほしつむ
 れとさりえ忍ひあへさせ給はずつらむしは
 しはし年月のことさへかきあつめよろつにお
 ほしつけられて時のまもおほつかなかりしを

かくても月りはへにけりとあさましうぼし
めさる右大納言のゆいごんあやまつ呂つかのは
いふかく物したりしよろこひはかひあるさまにと
こそ思りわたりつれいふかひならやと打の給せ
ていと霜におほしやるかくてもをのつかつか君
なとおひいて給さるべきつみてもありなむ
命なかくとこそ思ねんせめなどの給ハすかの送り
もの御覧せさすなき人のすみかたつね出たり
けむしるしのかんさしならましかはとおもほ
すもいとかひなし
たつね行まほろしもつてにても玉の
ありかをそことしるへくゑにかける揚貴順
のかたちは仰じきゑしといへともふてかきり有
ければいとほひなし大流の美薺末央の柳
もけにかよひたりしかた比をかめいたよそ
ひはうるはしくこそありけるなつかしうらぞたけ
なりしをおほし出るに花鳥の色にもねにも
よそふへきかたそなき朝夕のこくさにはね
をならへえたをかはさむと北きらせ給しにかなは
さりける命のほとそつきせずそめしき風の
をと虫のねにつけて物のみかなうほさるに
弘激殿には久ううへの御つほねにもまうのほり
給ハズ月のおもしろきに夜ふくるまであそひを
そし給なるいとすさましうものしつきこし
めす此比の御乗しきをみたてまつるうへ人女
房なとはかたはら住たしときけりいとをしたち
かときところものし給ふ御かたにていとにも
あらすほしけちてもてなし給なるへし月も

入ぬ

雲のうつも波にくる秋の月かてむ
らむあさちふのやとおほしやりつともし火
を
かけつくしておきおはします右近のつかさののゐ
まうしじの声きこゆるはうしになりぬるなるし
人めをほしてよるのおとにいらせ給てもま

かくても月りはへにけりとあさましうぼし
めさる故大納言のゆいごんあやまつ言つかへのほ
いもなかく物したりしよろこひはかひあるさまにと
こそ思かわたりつれいふかひなしやと打の給はせ
ていと顔りおほしやるかくてもをのつからわか店
なとおひいて給こさるべきつみてもありなむ
命なかくとこそ思ねんせろなどの給つすかの送り
ものつろんせさすなき人のすみかたつねおゝり
けむしるしのがんさしならましかはとおもほ
すもいとかひなし
たつね行まほろしもかなつてにても玉の
ありかをそことしるへくゑにかけか楊貴妃
のかたちは仰みじきゑしといへともふてかきり有
ければいとほひすなくし大流の美薺未夫の柳
もけにかよひたりしかた比をからはいたるよそ
ひはうるはしくこそありけるなつかしうらうたけ
なりしをおろしおるに花鳥の色にもねにも
よそふへきかたそなき朝夕のこくさにはね
をならへえたをかはさむと比きららせ給しにかなは
さりける命のほとそつきせずうはしき風の
をと虫のねにつるて物のみかなしうおほさるゝに
弘激殿に法久しううへのさつほねにもまうのほり
給ハズ月のおもしろきに夜ふくがまであそひを
そし給なるいとすさましうものしつきこし
かす此比の御氣しきをみたてまつるうへ人女
ななとはかたはら伊くたしときつけりいとをしたち
かとくしきところものしかふゆかたにてことにも
あらず雲おのほうくへもけ汲ちてにもくてるなゝ秋し
の給な月る伊へかしてすほ入もむぬ

らむあさちふの屋とおほしやりつともし火
を
かゝけつくしておきおつします右近のつかさのとのゐ
まうしの声きこゆるはうしに行りぬるなるへし
人かをおほししてよるのおとゝゝこりいせ給てもま

どうませ相事かたしめしたにおさせたまふ
とてもあくるもしらてとおもほいつなにも
猶あさまつりこはをこたらせ給ぬへかめり
物なともきこしめさすあさかれいのけしき計
ふれさせ給て大床子の御物なとはいとはるかに
おほしめしたればばいせんにさふまかきりは心
くるしき御しきをみてまつりな乗くすべて
地かうさふらふかきりはおとこ女いとわりなきわさか
なといひあせつゝなけくさるへき北きりこそは
おいしましけかそらの人のそしりうらみをも
はゝからせ給はすこの御にふれたる事をはたう
りをもうしなはせ給ひをいたかく世の中のをも
おほしすてたるやうにいり行はいとたいしき
わさなりと人のみとのためしまてひきいてさ
さめきなけきけり月日へてわか雪まちり給ひぬ
住この世の物ならすきよらにおよすけ給へへれは
いとゆしうほしたりあくる年のは坊さた
まり

給にもいとひきこさまほうおほせと御こしろみ
すへき人もなく又世のそけひくましき事るれ
は中くあやうくおほしはかりて有にもいたさ
せ給はすなりぬるをさいかりおほしたれとかきり
こそありけれと世の人もきて女御も御心おち
ゐたまひぬかの御おは北のかたなくさむかたなくお
ほしつみておはすらんところにたにたつねゆん
とねかひ給ししるしにやつみにうせ給ぬれは
又はをかなひおほす事かざりれしみこむつに
なり給年なれは此たひはほしりてこひな
きたまふ年比なれむつひきて給へるをみ奉り
をくかなしひをなむ返のまひけるをはうち
そのみさふゝひたまふなつになり給へ八帰みじ
めなとせさせ給て世にしらすさとうかしこく
おはすれはあまりにおそろしきまで式らん
すは誰もれ元もにくみ給はしは君なくて
たにらうたうし給へとて弘微殿などにも
わたらせ給ふ御ともにハやかて見すのうちにれ
たてまつり給伊みしきものふあたがかたき

どうませ相事かたしめしたにおさせたまふ
とてもあくるもしらてとおもほしつなにも
猶あさまつりことはをこたらせ給ぬへかめり
物なともきこしめさすあさかれいのけしき計
ふれさせ給て大床子の御物なとはいとはるかに
おほしはしたればばいせんにさふらふかきりは心
くるしきツくしきをみてまつりな気くすべて
地かうさふらふかきりはおとこ女いとわりなきわさか
なといひあはせつゝなけくさるへき比きりこそは
おつしましけるそらの人のそしりうらみをも
はゝからせ給はすこの御事にふれたる事をはたう
りをもうしなはせ給ひすいたかく世の中の事をも
おほしすてたるやうにいり行はいとたいくしき
わさなりと人のみかとのたかしまてひきいてゝさ
さめきなけきけり月日へてわか旨まらり給ひぬ
伊とこのせの物なららすきよらにおよすけ給へれは
いとゆうしらおほしたりあくる年のは坊さた
まり

給にもいとひきこさまほしうおほせとあこしろみ
すへき人もなく又尤のうけひくましきまるれ
は中くあやうくおほしはかりて色にもいたさ
せ給はすなりぬるをさいかりおほしたれとかきり
こそありけれと世の人もきて女御も御心おち
ゐたまひぬかの御おは北のかたなくさむかたれくお
ほしつみておはすらんところにたにたつねゆかん
とねかひ給ししなしにやつみりうせ給ぬれは
又尽をかなしげひおほす事かざりなしみこむつに
なり給年なれは此たひはおぼしりてこひな
きたまふ年比なれむつひきて給つるをみなり
をくかなしひをなむ返候のたまひけるすはうち
こにのみさふゝひたまふなつになり給へはふみつし
めなとせさせ給こく世にしらすさとうかしこく
おはすれはあまりにおそろしきまでつこん
すい一は誰もたれえもにヘミ給はしは若なくて
たかりらうたうし給へとて弘微殿などにも
わたるせ給ふ御ともりはやかて見すのうちにれ
たてまつり給伊みしきものふあたかたき

なりともみてはうちゑまれぬへきさまの
給へれはえさしはなち給はす女みこたちふた所
この御はらにお八しませとなすひ給へきたに
なかりける御かたくもかくれ給はすをまりなま
めかしうはつかしけにおすれば仰とおかう
う比とけぬあそひ草にたれもく思きこ
給へりわさとのツかくむはさる物にてと
ふゑのねにも空ゐをひかしすへていひつ
け八ことくしうたてそなりぬへき人の御
さまなりけるその比こまうとのまいれるか中に
かしこきさうにんありけるをきしそして

呂のこ北にめさむとはうたのみかとの御伊ま
しろあれはい見ゞうしのひて此みこを島膳酷
につかはしたり御うしろた北てつかうまつ
右大筋のこのやうにおもせてゐて奉る相
人とろきてあまたらひかたふきあやしふ
くにのおやとなりて帝王のかみなきくらゐ
にのほるへきさそおはします人のそなたにて
みればみたれうれふるやあらんおほやけの
かためとなりて天下たするかたにてみれば
又そのさうたかふへしといふ崩もいとざえ
かしわきけかせにていひかはしたる事ともなむ
いとけうありけるふみなどつくりかしてけふ
あすかへりさりなむとするにかくありかたき
人にたいかむしたるよろこひかへりては
かなしかるべき心はへをおもしろくつくりたる
にみこもいと花なるくをつくり給つるをかき
りなめて奉りてい見じきをくり物こも
をさけ奉るおほやけよりもおほく物たま
すをのつかゝ事日ろこりてもらさを給はね

春宮のおほちおとゝなといかなる事にとお
ほしうたかひてなむありけるみかとかしき
御心にやまとさうをほせておほしよりに
けるす比なれはいまて此君をみこにもなさ

なりともみてはうちゑまれぬへきさまのし
給へれはえさしはれち給はす女みこたちふた所
この御はらにおつしませとなすひ給へきたに
なかりける御かたくもかくれ給はずすよりなまし
めかしうけつかしけにおいすれば伊とおかしう
うむとけぬあうひ草りたれもく思きこて
水へりわさとの御かくもむはさる物にて
ふゑのねにも雲井をひかしすへていひつ
けはことくしうたてそなりぬへき人の御
さまなりけるその比こまうとのさいれるか中に
かしこきさうにんありけるをきこしろして

谷のうむにめさむことはうたのみかとの御伊ま
しろあれはい見じうしのひこく此みこを島腹
につかいしたり御うしろみたきてつかうまつか
右大翁のこのやうにおもはせてゐて奉る相
人とろきてあまたらひかたふきあやしふ
くかそのおやとなりて帝王のかみなきくらゐ
にのほるへきさうおつします人のそれたにて
みればみたれうれふるこやあらんおほや汁の
かためとなりて天下たするかたにてみれば
又そのさうたかふへしといふ翁もいとざは
かしわきけかせにていひかはしたる事ともなむ
いとけうありけるふみなどつくりかかつしてけふ
あすかへりさりなむとするにかくありかたき
人にたいかむしたるよろこひかへりては
かなしかるべき心はへをおもしろくつくりたる
にみこもいと衣行るくをつくり給つかをかき
り行ふめて奉りてい見じきをつり物ごも
をさけ奉るおほ屋けよりもおほく物たま
す春を言のつおかほらち事おと日ゝろなことりいて
かなもるらさ事に給かはとねおと

ほしうたかひてなむありけるみかとかしこき
如心にやまとさうをおほせておほしよりに
くるすむなれはいまて此宿をみこにもなさ

せ給はさりけるを相人ハまことにかしこりけり

|とほして無品親王のけ やくのよせなき

にてはたよはさしわか通もいとさためなきを
た人にてほやけの御こしろみをするなん
行さきもたのもしけなることほしさたて
いよくみちくのさえをならいさせ給ふきはこと
にかしこくてお人にハいとあたしけれと
みこなり給ひなは世のうたひおい給ぬへく
物し給へはすぐえうのかしこきみちの人に
かむかへさせ總にもおなしさまに申せは深氏
になし奉るへくおほしをきてた日り年月に
そへて否す所の御事をおほしわするゝ折なし
なくさむやとさるへき人をまいらせ給へとなす
らひにおほさるたにいとかたき世かなとそ
とましうのみよろつにおほしなりぬるに先帝
の四の呂の御かたちすくれ給つるきこてたかく
おしますはゝきさきよになくかしつきて

給ふをうへにさふらま内侍のすけは先帝の
御時の人にてかの宮にもしたしうまいりなれ
たりければいはけなくおはしまし時より奉
りもほのみ奉りてうせ給にし呂す所の御
かたちに似たまつる人を三代の言つかへにつた
はりぬるにえみ奉りつけぬにきさいの肴肴
の姫宮こそいとようほておひいてさせ給へり
けれありかたき御かたち人になむとそし
けるにまことにやと御心とまりてねん比に
きこてさせ給りはきさきあなおそろや
春呂の女御のいとさかなくくてきりつの更
衣のあらはにはかなくもてなされしたそしも
ゆしうとおほしつみてですがくうもお
ほしたさりける程にきさきもうせ給ぬ
心ほそきさまにておハしますにたわか女み
こたちとおいしつらに思ひきこてんと伊と
ねん比にきこえさせ給ふさふらふ人御そし
ろみたち御せうとの兵郷のみこなとかく心ほ

とせお給ほしはさたり無け品るを親相わ人ののはまけこ
候とやにくかのしよこせかまなりけり

にてはたゝよはさしわか通もいとさたつなきを
たゝ人にておほ屋汁のつこしろみをするなん
行さきもたのもしけなることゝゝおほしさたけて
いよくみちくのさえをならいさせ給ふきは
りかしこくてた人にはいとあたしけれと
みこなり給ひなは世のうたかひおい給ぬへく
物し給へはすぐえうのかしこきみちの人に
かむかへさせ總にもおなしさまに申せい深氏
こりなしなるへくおろしをきてた日年月に
そへて言す所の御事をおほしわするゝ折なし
行くさむやとさるへき人をさいゝらせ給へとなす
らひにおほさるなたりいとかたき世かなとう
とましうのみよろつにおほしなりぬるに先帝
の卿の言の御かたちすくれ候へるきこてたかく
おはしますはゝきさきよになくかしつきゝて

給ふをうへかりさふらふ内侍のすけは先帝の
御時の人にてかの吉にもしたしうまいりなれ
たりければいはけなくおつしまし候時よりわ幸
りしもほのみ奉りてうせ給にし吉す所の御
かたちに似たまつる人を三代の言つかへにつた
はりぬるにえみなりつけぬにきさいの最最
の姫宮こそいとようおほうておひいてさせ給へり
けれありかたき御かたち人になむとそうし
けるにまゝとにやと御心とまりてねん此に
きこてさせ給くりはゝきさきあなおそろしや
春吉の女御しのいとさかなくてきりつほの更
衣のあらはにはかなくもてなされしたうしも
ゆかしうとおほしつゝみてですがくしうもお
ほしたゝさりける程にきさきもうせ給ぬ
心ほそきさまにておはしますにたゝわか女み
こたちとお行しつゝに思ひきこてんと伊と
ねん比にきこしさせけふさふゝふ人ゝ御こし
ろみたちゆせうとの丘部郷のみこなとかくつほ

そくておいしまさましよりはこちすみせ
させたまひて御心もなくさむへくなとしほ

なりてまいせ奉り給へり藤つほときこゆけ
に御かたち有様あやしきまでそおほけへ
るこれは人のきはまさりておもひなしそて
たく人も元おしめき給はねはうけは
りてあかぬ事なしかれば人もゆるしきこ
さりしに御心さしゐ屋になりしそかしほ
しまくるといなけれとをのつから御心うつろひ
てこよなくおほしなくさむやうなるも霜
なりわさなりけり源氏の君は御あたりさり
給はぬをましてし気くわたらせ行御かたは
えはちあへ給はすいつれの御かたもわれ人に
おと縄とおほいたるやはあるとりくにいとめて
たけれとうちをとなひ給へるにいとわううつ
くしけにてせちにかくれ給へどをのつからもり
見奉るはゝ呂す所はかけたには給かを
いとよくに給へりと内侍のすけのきこける
をわかき御心ちにいと衆と思るきこ給ひて
つねにまいゝまほしくなつさひ見たてまつら
はやとおほえ給うへもかきりなき御思ると地
にてなうとみたまひそあやしくよそきこ

つへき心ちなむするなめしとおほさてらう
たくし給へつらつきまみなとはいとよくにたり
しゆへかよひて見え給もにけながらになんなど
きこつけ給へへれはおきな心ちにもはれき
花もみちにつけても心さしを見たたてまつり
こよなぞ心よせきこて給へれはこきてんの女
御又この雪とも御なかそはくきゆへうちそ
へてもとよりのにくさも立出るものしとほ
したり世にたくひなしと見奉り給ひ名たう
おする雪の御かたちにも猶にほはしさはた
とへんかたなくうつくしけなるをよの人ひかる
君ときこゆ藤つほならひ給ひて御おほえも
とりくなれはかゝやくひの香ときこゆ此君

そくておいしまさましよりはこちすみせ
させしまひて御心もなくさむへくなとおほ

なりてまいせなり候へり藤つほときこゆけ
こり御かたち有のあやしきまでそおほへ候へ
るこれは人のきはまさりておもひなしうて
たく人もえおとしかきて給はねはうけは
りてあかぬ事なしかれば人もゆるしきこて
さりしり御心さし玉屋になりしそかしおほ
しまくるといなけれとをのつからつ心うつろひ
てこよれくおほしなくさむやうれるも哀
なるわさなりけり源氏の衣は御あたりさり
給はぬをましてし気くわたらせ行御かたは
えはちあへ給はすいつれの御かたもわれ人に
おとろんとおほいたなへはあるとりくにいとかて
たけれとうちをとなひ給つるにいとわかううつ
くしけにてせちにかくれ給へとをのつからもり
見奉かはゝ宮す所はかけたにおほく給かぬを
いとよくに給へりと内侍のすけのきこてける
をわかき御心ちにいと取と思るきこて給ひこて
つねりまいゝらまほしくなつさひ見たたてまつら
はやとおほく給うへもかきりなき御思ると地
にてなうとみしまひそあやしくよそへきにこて

つへき心ちなむするなかしとおほさてらう
たくし給へつらつきまみなとはいとよくにたり
しゆへかよひて見え給もにけながらになんなど
きこてつふ候へれはおきな心ちにもはかれき
花もみちにつはけても心さしを見たたてまつり
こよれう心よせきこて候へれはこきてんの女
御又この最とも如なかそはくしきゆへうちそ
へてもとよりのにくさも立出こてものしとおほ
したり世にたくひれしと見奉り給ひ名たかう
おする最の御かたちにも猶にほはしさはた
とへんかたれくこつくしけなるをよの人ひかる
若ときこゆ藤つほならひ給ひて御おほしも
とりくなれはかゝやくひの言ときこゆ此君

の御わらはすかたいとかへまうくおほせと十二にて御え眼し給ふみたちおほしいとなてかきりある事にことをそへさせ給ふひとせの春雪の御元恨南殿にてありしきしきのよそほしかりし御ひゝきにおせ給す一所の饗などくらつかさこくさう院などおほやけにつかうまつれるをろそかなること

もそとりわきおほせとありてきよらをつくしてつかそまつれりお八しま奇殿のひんかしのひさし東むきにいしたてくわんさの門座ひきいれの大臣のツ座御御前にありさるの時にて源氏さいり給見つらゆひ給へるつらつきかほのにはひさまかへ給はんことおしけ大菟郷くる人つかうまつるいときよらなる御くしをそく程心くるしけなるをうへは雪す所の見まかなとほし出るにたへへたき日を心つよくねんしづかへさせ給ふかうふりし給て御屋すみ所にまかて給て御そ奉りかへてはいし奉り給さまにみな人なみたおとし給みかとはたまして恵しのひあへ給守おほまきるゝ折もありつる昔の事とりかつしかなしくおほさるいとかうきひはいるほとはあけおとりやとうたかハらくおほされつるをあさましうつく汁さそひ給へりひきいれの大臣のみこはらにたりかしつき給ふ御むすめ春谷よりも御けしきあるをおほしわつふこありけるは此君にたてまつかんの御心なりけり内にも

御けしき給せ給ければさはこの折の御うしろみなかめるをそひふしにもともよほさせ給ければさおほしたりりさふひにまかて給て人おほみきなとさいる程みこたちの御座のすゑに源氏つき給へりおと重しきはみ給事あれとものゝましき程にてともかくもえあへしらひきこたえ給すおまへより内侍宣旨旨うけ給はり

の御わらはすかたいとかへまうくおほせと十二にて御元服し水ふみたちおぼしいとなみてかきりある事にことをそへさせ水ふひとゝせの春最の御元服南殿にてありしきしきのよそほしかりし御ひゝきにおとさらせ給す所の饗などくらつかさこくさう院などおほやけことにつかうまつれかをろそかれるこ

りそとりわきおほせとありてきよらをつくしてつかうまつれりおつしますほのひんかしのひさし東むきにいしたてくわんさの御座ひきいれの大臣のつ座御し前にありさるの時にて源氏さいり給見つらゆひ給へるつらつきかほのにはひさまかへ給はんことおしけし大藏郷くら人つかうまつるいときよらなるゆくしをそく程心くるくしけなるをうへは宮す所の見ましかなとおぼしおるにたへかたき日心つよくねんしかへさせめふかうふりし給て御屋すみ一つにまかて給てつそ奉りかへてはいしなり行さまにみな人なみたおとし給みかとはたまして雪しのひあへ給等おほしさきるゝ折もありつる昔の事とりかつしかれしくおほさるいとかうきひはなるほとはあけおとりやとうたかはしくおほされつるをあさましうつくしけさそひ給へりひきいれの大臣のみこはらにたゝ日とりかしつきかふ御むする春宮よりもつくしきあるをおほしわつゝふことありけるは此えりたてまつらんの御心なりくゆり内にも

御くしき給いらせ給けれのさはこの折の御うしろみなかつるをそひふしにもともよほさせ給けれ法さおほしたりりさふゝひにまかて給て人ゝおほみきなとさいか程みこたちの御座のすゑに源氏つき候へりおとと金しきばみ給事あれとものゝましき程にてともかへもえあへしくひきこたてタ給すおまへより内侍宣旨うけ給はり

つたへておとまいり給へきめしあれはまいり
給御ろくの物うへの命婦とりて給ふしろ
きおほうちきに御そひとくたりれいのれ
御さかつきのつみてに
いときなきはつもとゆひに長きよを契る
心はむすひこめつや御心はへありておとろか
させ給ふ
むすひつる心もふかきもとゆひにき
むらさきの五しあせすはとそうしてながはは
よりおりてふたうしたまふひとりのつかさ
の御むまくら人所のたかすべて給はりまふ
見はしのもとにみこたちかんたちめつらねて

ろくともしなくに給はり給ふその日のおまの
おりひつものこ物など右大崩なんそふ給ハて
つかうまつらせけるとんしきろくのからひとつも
なと所せきまで春雪の御兼ふくの折にも
数さされり中くきりもなくいかろしそなん
その夜おとの御さとに源氏の君まかてさせ
給ふさはそ世にそつらしきまてもてか
つきこゝ給つりいときひわにておはしたるを
ゆしくうつくしと思ひきニえ給へり女君八
すこしすくし給へる程にいとわかうをはすれば
にけなくはつかしとおほいたり此おとゝのツお
ほえいとやむことれきには否内のひとつき
さいはらになむおハしければいつかたにつけて
も物あざやかなるに此君さへかくおハしそひ
ぬれは春言の御おほちにてつみに世中
をしり給へべき右のおの御いきほひは物にも
あらすおされ給つり御子ともあまたはらくに
物し給ふ宮の御はらはくら人の少将にていと
いどわかうをかしきを右のおとゝの御中はいとよ
かねとえ見すくし給てかしつきたまふ四

の君にあせ給へりおとらにもてかしつきたる
けあらまほし、き御あラアトノキにかお酒

つたへておとゝまいり給へきはしあれはさいり
給つろくの物うへの命婦とりてもふしろ
きおほうちきにつそひとくたりれいの事し
御さかつきのつみてに
いときなきはつもとゆひに長きよを契る
心はむすひこかつや門心はへありておとろか
させもふ
むすひつる心もめふかきもとゆひにこき
むらさきの色しあせすはとそうしてなかはし
よりおりてまたうしたまふひとりのつかの
のつむまくら人所のたかすべて給つりまふ
見はしのもとにみこたちかんたちはつらねて

ろくともしなくに給いりめふその日のおまへの
おりひつものこ物など右大弥なんうふ給つりて
つかうまつらせけるとんしきろくのからひとつも
なと所せきまで春の御ゑふくの折にも
数さされり中くかきりもれくいかろしうなん
その夜おとのつさとに源氏の若まかてさせ
水ふさはう世にうつらしきまてもてかし
つきこゝ給つりいときひわにておはしたかを
ゆしくうつくしと思ひきこ也給つり女君は
すこしすつし給つる程にいとわかうをはすれば
一けなくはつかしとおほいたり此おとゝののお
ほゝいとやむことひきにはゝゝ言内のひとつき
さいはらになむおいしければいつかたにつけて
も物あざやかれるに此君さへかくおつしうひ
ぬれは春言の御おほちにてつみに世中
をしり給へき右のおとゝの御いきほひは物にも
あらすおされ候つり御子ともあまた見らくに
物し給ふ宮の御はらはくら人の少将にていと
いどわかうをかしきを右のおとゝの御中はいとよ
からねとえ見すつし給はてかしつきたまふ卿

の君にあはせ給へりおとらすもてかしつきたか
けあらまほし、き御あラアトノキにかお酒

の君はうへのつねにろしまつ世は心やすく
さとすみもゑし給はに心のうちには藤つほ
の御ありさまをたくひなしと思るきてさや
そなら無人をこそみめにる人なくもおハしける
かなおほひとのゝ君いとおかしけにかしつかれた
人とはみゆれと心にもつかすおほええ給ておさ
なき程の御もとへ心にかりていとくるしき
までおはし気るとれになり給てのちは
ありしやうにみすのうちにもいれ給はす御
あそひの折くこと堂のねにきかよひほ
のかなる御声をなくさにて内すみのみこの
ましうほ元たまふ五六りさふららひ給てほ
いとのに二りなとたくにまかて給へとた今は
おさなきツ程につみなくおほしなしていとなミ
かしつきこえ給御かたくの人世中にを
なへたゝぬをえりとのへすくりてさふ
せたまふ御心につくへき御あそひをしほ
なくおほしいたつく内そハもとのしけいさを

ミさうしにてはゝ雪す所の御かたくの人く
まかてちらすさふらはせ給さとの故は修理職
たくみつかさに宣旨くたりてになうあらため
つくらせ給ふもとの木たち山のたすまゐ
おもしろき一所いるをいけの心もろくしなして
めてたくつくりのしるかゝる所に思やうならん
人をすつてすまはやとのみなかじそおほ
わたるひかる君といふ名はこまうとのそてきこ
えてつけたてまつりてとこそいひつたへたる
となん

の若のうへのつねにろしまつはせは心屋すぐ
さとすみも五うし給はに心のうちには藤つな
のつありさまをたくひなしと思るきてこしてさや
うなむ人をこそみめにる人なつもおつしけか
かなおほひとのゝ君いとおかしけにかしつかれたる
人とはみゆれと心にもつかすおほゝ給ておさ
なき程のか日とへ心かりかゝりていとくるしき
までおはし気るおとれにれり給てのちは
ありしやうにみすのうちにもいれ給はす御
あそひの折くこと笛のねにきゝかよひほ
のかなる御声をなくさかにて内すみのみこの
ましうおほえたまふ五六日さふゝひ給ておほ
いとのに二足りなとたゞくにまかて給へとたゞしは
おされきつ程かりつみいくおほしなしていとなみ
かしつきこゝ給御かたくの人世中にをし
なへたゝぬをえりとゞのへてすくりてさふら
いせたまふ御心につくへき御あそひをしおほ
なくおほしいたつく内にはもとのしけいさを

ミさうしにてはゝす所の御かたくの人く
まかてちらすさふらはせ給さとの故は修理職
たくみつかさに宣旨くたりてになうあらため
つくらせ給ふもとの木たち山のたゞま打
おもしろき一ついるをいけの心日ろくしれして
かてたくつくりのゝしるかゝる所り思やうならん
人をすへこくすまはやとのみなかじうおほし
わたるひかる者といふ名はこまうとのうてきこ
えてつけたてまつりてとこそいひつたへたる
となん

日

文字数: 10528
空白数: 0 空白込み文字数: 10528
改行数: 544 改行込み文字数: 11072
単語数: 544

文字数: 11003
空白数: 0 空白込み文字数: 11003
改行数: 568 改行込み文字数: 11571
単語数: 542

結果のみ表示 (印刷用) | カラー1 カラー2 モノクロ

この結果を公開する

この結果をデュアルサーバに保存し、公開用のURLを発行します。
削除パスワードを設定しておけば、あとで消すこともできます。
公開期間は3日間です。 公開期間を過ぎると自動的に削除されます。

削除パスワード : 設定したパスワードは後で確認することができませんので必ず控えてください。

結果を公開する

「結果を公開する」を押さない限り、入力した文書などがサーバに保存されることはありません。
この機能はテスト運用中のものです。予告なく提供を中止することがあります。